

午後 2 時 00 分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。

定刻となりましたので、ただいまより平成27年5月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

まず初めに、市長就任後、初めての会見となりますので、幹事社様より順番に社名とお名前を皆様お願いいたします。

〔記者自己紹介〕

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

また、こちら事務局のほうでございますが、4月30日付の人事異動におきまして秘書広報課長、課長補佐がかわりましたので、ご挨拶を申し上げます。

〔事務局自己紹介〕

【秘書広報課長補佐】 それでは、本日の会見は、最初に市長の挨拶、その後につきましては、本日は事業発表がございませんのでフリーの質疑応答に移らせていただきます。

なお、お手数ですけれども、ご発言の際は自席にありますマイクのスイッチを入れていただきまして、ご発言が終わりましたら切っていただくようお願いいたします。

記者会見終了は15時を予定させていただいております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしく申し上げます。

【市長】 このたび敦賀市長になりました溯上隆信でございます。どうぞよろしくお願いたします。就任2日目ですので、まだ何もわかりませんが、早速記者会見ということなので、どうぞお手やわらかに、よろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、順に質問をお受けしたいと思います。最初に、幹事社様のほうからお願いいたします。

【記者】 2日目ですが、いかがですか、市役所は。

【市長】 思ったより忙しいです。今いろんなレクチャーをしていただきまして、いろいろ勉強させていただいております。

【記者】 まだ2日で、今いろんなことを勉強されているということなんですが、ここを変えなきゃいけないとかというところをもう既に感じているところがありますか。

【市長】 そこまでは具体的にはありませんが、何となく雰囲気的には感じているものがあります。

【記者】 雰囲気に感じているものは、どの事業、どの政策なんでしょうか。

【市長】 そこは、まだ具体的には言えないので。漠然と感じているものがあります。

【記者】 話変わるんですが、副市長をお1人置くかお2人置くか、それとどういう方を人選されるか、もう既に決まっていらっしゃいますか。

【市長】 私が新人ですので、やはり市の中のことを詳しい人というのが副市長にふさわしいと思っていますので、市の職員もしくは市の職員のOBの中からお1人選びたいと思っています。また、業務の量を見まして、2人体制にするのか1人体制のまま行くのかというのは、これから考えることだと思っています。

【記者】 副市長、市に詳しいOBもしくは現職の方は、いつぐらいに決まるんですかね。

【市長】 今度、組織議会が5月20日だと思いますが、その1週間ぐらい前までにはきちんと決めなくては行けないので、5月10日ぐらいにははっきりするんじゃないかなと思います。

【記者】 きのうの訓示で職員アンケートを実施されるとおっしゃっていましたが、どういう設問を想定されて、いつごろ実施される予定ですか。

【市長】 副市長が決まってからになると思うんですけども、やはり職場環境をよくしたいということがありますし、適材適所という意味で、いろんな能力、私らが知らない能力も多分持っていらっしゃる方もいらっしゃると思います。また仕事に対するモチベーションのあり方というのは個々に違うと思いますので、本当は一人一人面接をして聞くのがいいんでしょうけれども、アンケートで出させていただいて、その人たちが働きやすい環

境というのをつくりたいと思っています。

【記者】 そのアンケートをもとに今度の人事異動を考えられるということですか。

【市長】 6月の人事異動ですか。6月の人事異動は、そこには余り考えていません。ですから一応アンケートをもとにして、いろんな人と話をしてみてもということになると思うんです。要は敦賀市の今の人事といいますと、いろんなところに3年おきぐらいにずっと回っていきますが、前も言ったこともあるかもしれませんが、土木畑だったら土木畑、総務畑だったら総務畑という自分のスキルアップをしながら年を経ていくほうがいいと思っていますので、7割か8割の人たちがそういうスキルアップして専門の知識を蓄積する人たち、2割か3割が全体を見渡すような職務につく人たちというのを考えていきたいので、そういうことが可能かどうかも含めて、一回そういうアンケートをとりたいということです。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、幹事社様、ございますか。

【記者】 ゴールデンウイークが始まりまして、これから夏休みということもあると思うんですけれども、観光振興でこういうことがやりたいとか、もしありましたら教えてもらえますか。

【市長】 ゴールデンウイークですと間に合わないと思うんですが、今度7月、8月の夏休みのシーズンに向けて、何か集客できるような目玉ができるといいなということで、ちょっと今、仕掛けかけています。

【記者】 具体的には、また今後ということですね。

【市長】 相手方がありますので。

【記者】 ちょっと短いですが、これで終わります。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。それでは、各社お伺いさせていただきます。ご質問ございましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 1点、本筋とは関係ありませんが、できれば真正面向いてお答えいただくと、テレビカメラもありますので、今後も含めまして。お答えに顔を向いてお話しいただいても結構なんですけど、なるべく体も前のほうを向いてお答えいただければと思います。

やわらかい質問から。ちょっと鼻声のようなんですけれども、体調とかいかがなのでしょう。

【市長】 ちょっと気が抜けまして、ちょっと風邪引きました。済みません。

【記者】 一つだけ本題の質問をさせていただきますと、市長になったと同時に、全原協の会長というポジションも自動的に引き継ぐということになりました。これに対する今のお考え、姿勢というのはいかがお考えでしょうか。

【市長】 全原協につきましても、理事さんとかいろんな方と一緒に、会長トップで判断するのではなくて合議制でやっていくということをやろうと決めておりましたので、皆さんと話し合いながら進めていけるんじゃないかなと思っています。

【記者】 そんな中で早速ストレートな質問で恐縮ですが、きのう高浜の1・2号機が全国で初めて40年超運転の申請というのをされました。この件に対する受けとめをお伺いできますでしょうか。

【市長】 これから認可されるかどうかということはまた別だと思うんですけれども、安全性を確認して事業者が出したということですので、ぜひ前向きに進んでいただきたいと思います。

【記者】 就任前の選挙戦も通じて、原子力政策については安全が確認できれば推進していくというふうなお立場だったかと思いますが、全原協会長の立場として、敦賀再生という位置づけにおいても、敦賀の原発というのは現状動いてないという状況が続いていますけれども、このあたりはどのように国に対しても行動されていくおつもりでしょうか。

【市長】 1号機はもう廃炉の方針決まりましたので。2号機につきましては、今から国の判断ということが入ると思いますので、それにつきましては、できるだけ動かしていただきたいということを働きかけていきたいと思っていますし、3・4号機についての検討を始めていただきたいということをお願いしたいと思っています。

【記者】 具体的に今、要請活動とか、前市長も再三にわたってしてこられましたけれども、直近でご予定とかはございますでしょうか。

【市長】 今は2日目なので、本当に何もありません。今はいろんなことを学んでいる状態でございます。

【記者】 きのうの初訓示のことで、先ほどもちょっと質問ありましたけれども、ちょっと確認したいんですけれども。

まず1点は、アンケートに絡んで、ちょっと聞きなれない言葉と申しますか、報復人事というような表現があったんですけれども、これは今回の選挙に絡むものなのか、それとも純然と今後行うアンケートの結果に対しての何かそういう人事に反映されることはないという意味なのか、どちらなんですか。

【市長】 全般にという意味なんですけれども、選挙がかなり僅差でしたので、いろんな方がいらっしゃるということになります。それについて一回水に流しましょうという意味のことを言いたかったということです。ですから多分、皆さんに不安があると思いますので、その不安を払拭したいというつもりで言いました。

【記者】 ただ、初訓示でそういった生々しい言葉が出るというのが、その後に隠し金というお話もありましたけれども、これから同じ思いで敦賀市をよくしていこうという職員の方と一緒に手を組んで始めようという最初の顔合わせですね。その場でそういった言葉が出ることで、何となく職員の雰囲気とか、渕上市長に対する印象、受けとめ方というのが誤った印象を与えた、もしくは誤ったメッセージを受け取ってしまったような、そういう思いというのはございませんか。

【市長】 私にそういう気持ちがないので、そういうふうには受けとめられないように言っただけなんですけれども。ですから、そういうことはしませんよということを伝えれば、その額面どおりにとっていただきたいなと思います。だから別に何も裏がないので、私がそういう、あるから逆に言っているということはありませんから、そのまま受け取っていただきたいと思います。

【記者】 原子力政策に関連してちょっとお尋ねしたいんですけれども、市長選の際に地元紙の福井新聞に出ていたアンケートで、うろ覚えなんですけれども、敦賀3・4号機、進めてほしいというのが40%台後半で、反対の声も40%台前半ぐらいで、結構拮抗していたりという結果が出たりとか、あと、もんじゅについては3分の1ぐらいの人がとめてしまえというような結構厳しい声も出ていたんですけれども、母数が600ぐらいなのでどういうふうには評価していいかは難しい部分もあると思うんですけれども、その辺の市民の本音をどう捉えておられるのか。市長はどのようなスタンスなのか。ちょっとお聞きできないでしょうか。

【市長】 3割ぐらいの方がそういう反対の気持ちを持っていらっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、やはり敦賀の経済を支えている部分というのがありますので、私は安全確認できたやつは進めていきたいというふうに思っております。

【記者】 もんじゅなんかについても、ずっとトラブル続いて、いつ終わるんやという全く見えない状況ですけれども、もんじゅなんかでもぜひどんどん進めてほしいという、そんな感じですか。

【市長】 もんじゅについては、運転ができませんから、今、停止命令出ていますので。そこはやはり原子力開発機構さんのほうで努力していく部分だろうなということだと思います。

【記者】 そうしたら、もんじゅについては別に積極的に後押しとかじゃなしに、原子力機構が命令解除に向けて努力すべきことだという捉え方ですか。

【市長】 後押しする、後押ししないというところまで来てないんですよ、きっとね。命令解除、停止命令出たままなので。そこをクリアしないことには前に進まないんだと思います。それを無理やり解除してくださいよということは、ちょっとまた違うでしょうし。

【記者】 あともう1点お尋ねしたいんですけれども、高浜3・4号機が司法判断は出ましたけれども手続としては前に進んでいっているところなんですけれども、渕上市長が出馬のときの会見では、再稼働の地元同意に当たっては、ごく近接したところについては同意が必要だというふうにおっしゃっていましたが、これは例えば舞鶴なんかは高浜

から5キロ圏内にも入っていますけれども、やはりそれは同意が必要というようなことは思われるのでしょうか。

【市長】 その辺につきましては、事業者とか国のほうが判断するべきなんじゃないかなと思います。ですから私が判断することじゃないのかなということをおもっています。

【記者】 市長は、何か思われていることはないですか。判断は多分、国とか事業者だとは思いますが、お考えはないですか、特段。

【市長】 そうですね。特に申し上げないほうがいいとおもっています。

【記者】 わかりました。

【記者】 きこの訓示の中で、行政の棚卸しをされるというふうにおっしゃっていましたが、そのあたりはやはり財政計画なんかも見直さなきゃいけないとおっしゃっていましたが、詳しくどういうふうにされたいか、今の時点でわかっていることを教えてください。

【市長】 私もまだ2日目なので、中身ははっきりわかりませんが、敦賀市、500億ちょっとの借金が額面上はあります。ただ、そのほかに見えないものというのがプラスもマイナスもあると思うんですけれども、例えば市の職員の退職金積立金が十分にあるのかとか、萬象とかそういう施設についてのリニューアルとか維持修繕費が十分に積み立ててあるのかどうかということも見ていかなくてははいけませんし、道路の改修とか上下水道の改修の時期とその計画とが一致しているのかどうかということも見ていかないと、ただ単純におくらせているだけかもしれませんから。そうすると、金額は500億じゃなくて、もっと別の数字になるという可能性もありますので、やはり私が引き継ぐということは、そこをきちんとした数字に出したほうが引き継ぎやすいなということをおもっています。そういうことをやろうとしております。

【記者】 事業一つ一つの事業費なんかを見直して、なるべくスリム化をしていきたいという方向という捉え方でよろしいですか。

【市長】 そうですね。無駄なことがあるといたら、それはやっぱりスリム化していきたいとおもいますし、語る会でも言っていましたように、150メートル工事をするのに3年に分けて50メートルずつとか、そういう工事は無駄だと思いますので、ちょっと待っていただくところも出てくるかもしれませんけれども1年で一気にやってしまったほうが安くつくとおもっていますから、そういうことをしていきたいとおもっています。

【記者】 あともう1点。

フェリーターミナルの移動の件を結構おっしゃっていらっしゃったと思うんですが、選挙期間中も。具体的に例えばいつごろまでにそういう計画を出したいとか、何かありましたら。

【市長】 フェリーターミナルとか港のことに関しましては、やはり県と相談するということがまず第一なので、まず県のほうと相談しに行ってテーブルにのってもらおうというのが一番大事なことだとおもっています。ですから、きこの日は初日ですので、知事のほうに表敬訪問させていただきましたので、これからまたそういう実務的な話をできたらなということをおもっています。

【記者】 ありがとうございます。

【記者】 市民の声を市政にというお考えがあるという話だったんですけれども、もうちょっと具体的に、どのように市民の声を聞かれるのか、教えていただけますでしょうか。

【市長】 それは選挙期間中も申し上げたとおもいますが、一つは、市長と区長と語る会というのがありますけれども、区長さんだけでなく、区の役員さんも一緒に出席していただいて、その場に来ていただくというのが一つ。もう一つは、各地区を回りまして、ざぶとん会をやっていきましたので、そのざぶとん会を毎年やりたいということをおもっています。

今ちょっと打診してお願いしていますのは、公民館を教育委員会の部局じゃなくて総務部とか市長に近いところに持ってこれないかということも検討してほしいということをおもっています。そうすることで、公民館でいろんな話をされたことも吸い上げることができるのではないかなということをおもっています。

【記者】 区長などと語る会ですと上の年代になってしまうのかなと思うんですけれども、

中間層や子育て世代の話というのはどんなふうに。ほかに何か手法があるのでしょうか。

【市長】 ですから区長さんとか役員さんという高齢の重鎮みたいな方が見えますけれども、ざぶとん会であれば若い人も来れますので、来るか来ないかというのは別の話ですけども、関心を持って来ていただければ、そこで話ができますので、そういうチャンネルを3つつくことで、いろんな人が来てしゃべれるような体制ということをしたいなと思っています。

【記者】 開催の期間とかは考えていらっしゃいますか。1年で全部回るとか、考えていらっしゃいますか。

【市長】 毎年ですから1年に1回回るつもりなので、結構大変なんですけれども、組んでみたいと思います。

【記者】 選挙期間中に幾つか、先ほどのフェリーターミナルの移転の件もそうなんですけれども、幾つか具体的な案を、アイデアをお話いただいたかなと思うんですが、この2日間でレクとかを受けまして、これはそのとおりに進めようですか、これはちょっと実現が難しいなというふうな考えが深まったものってありますか。例えば、アクアトムに恐竜博物館を持ってくるお話みたいなのもお話いただいたかなと思うんですが、その辺、現状今どんなお考えでしょうか。

【市長】 一回チャレンジして持ってこようと思っていますし、可能性はちょっとクエスチョンなんですけれども、チャレンジしてみたいと思っています。

これはできないなというふうに感じたものは、まだありません。とりあえず何とかできそうじゃないかなというふうに感じています。相手があることなので、どこかで壁があるかもしれないんですけども、ぶつかるまで走ってみようと思っています。

【記者】 それはフェリーターミナルを今の鞠山のところから金ヶ崎に持ってくるという話も、今のところはそういうスタンスなのでしょうか。

【市長】 そうですね。まだ県のほうとは話ししておりませんので、そこについては全く白紙のままですけれども、やりたいと思っています。

【記者】 あと、きのうの訓示の件、言葉尻を捉えるつもりは全然ないんですけども、裏金があれば報告してほしいというようなことをおっしゃったかと思うんですが、あれは何かそういう端緒みたいなのをお持ちで、そういう呼びかけをされたのでしょうか。どういう意図での発言なのでしょうか。

【市長】 先日、清掃センターでちょっと不祥事がありましたし、4年ほど前にも不適切な会計処理というのがありましたので、一応ないですよという確認のつもりで申し上げましたし、もしあるんでしたら今のうちに出していただきたいなと思います。

【記者】 今現在、何かそういう具体的な例を把握されているとか、あるいは市議時代の4年間で何か耳にしたことがあるとか、そういうことではないということですね。

【市長】 そういうことではないです。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

ほかにございますでしょうか。皆様よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして5月の市長定例記者会見を終了させていただきます。

ご協力ありがとうございました。

午後2時24分 終了